水俣病事件

―人間の尊厳を取り戻す闘い―
～父川本輝夫と家族の物語～

2019. 12. 12

水俣病過激派患者家族

自主交渉派患者家族

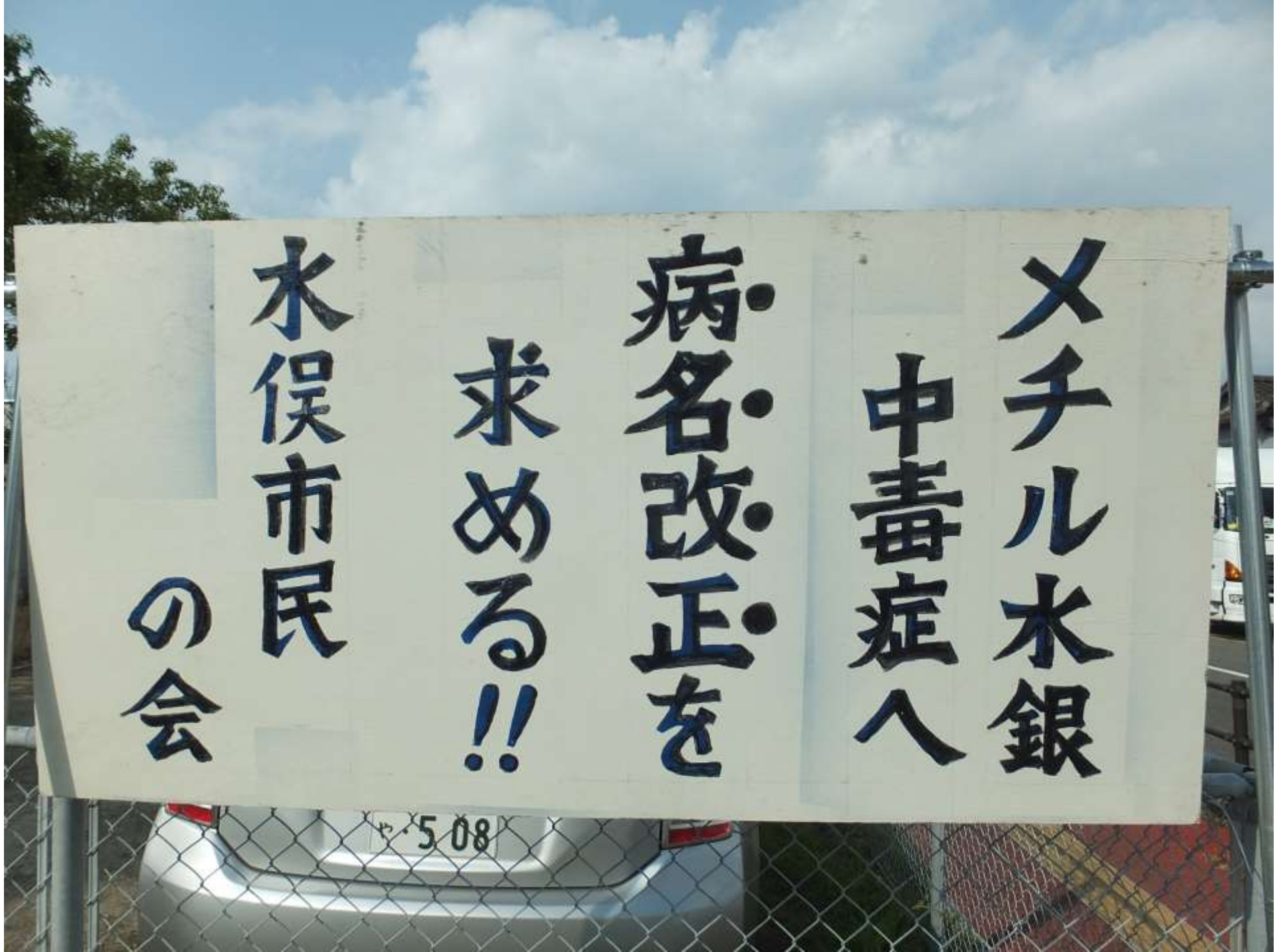
水俣病資料館　語り部

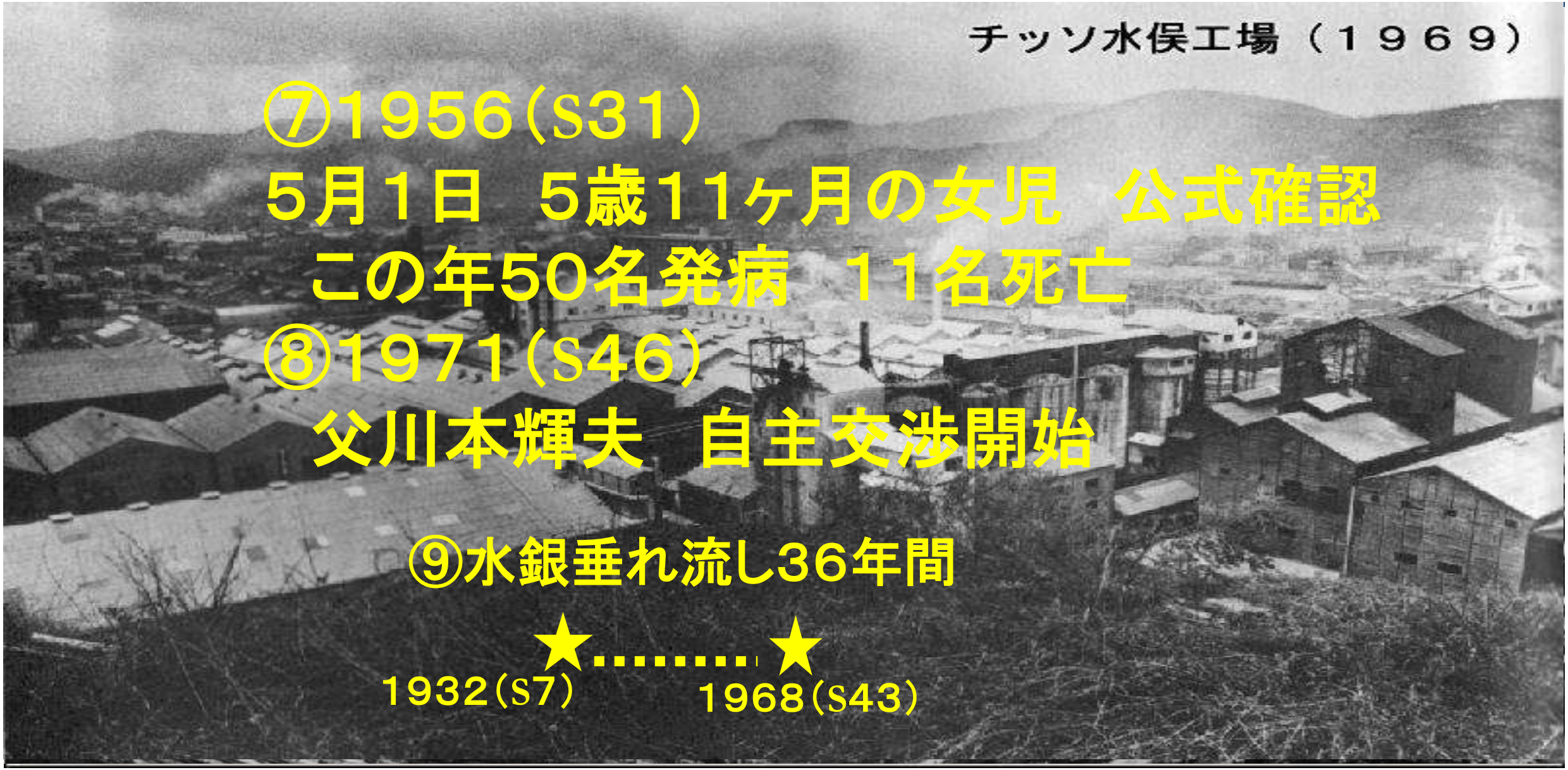
有限会社　リハシップ　あい

代表取締役社長

川本愛一郎

水俣病患者救済に一生を捧げた67年の生涯
川本輝夫（1931～1999）


メチル水銀
中毒症へ
病・名・改・正・を
求める!!
水俣市民
の会



⑦1956(S31)
5月1日　5歳11ヶ月の女児　公式確認
この年50名発病　11名死亡

⑧1971(S46)
父川本輝夫　自主交渉開始

⑨水銀垂れ流し36年間

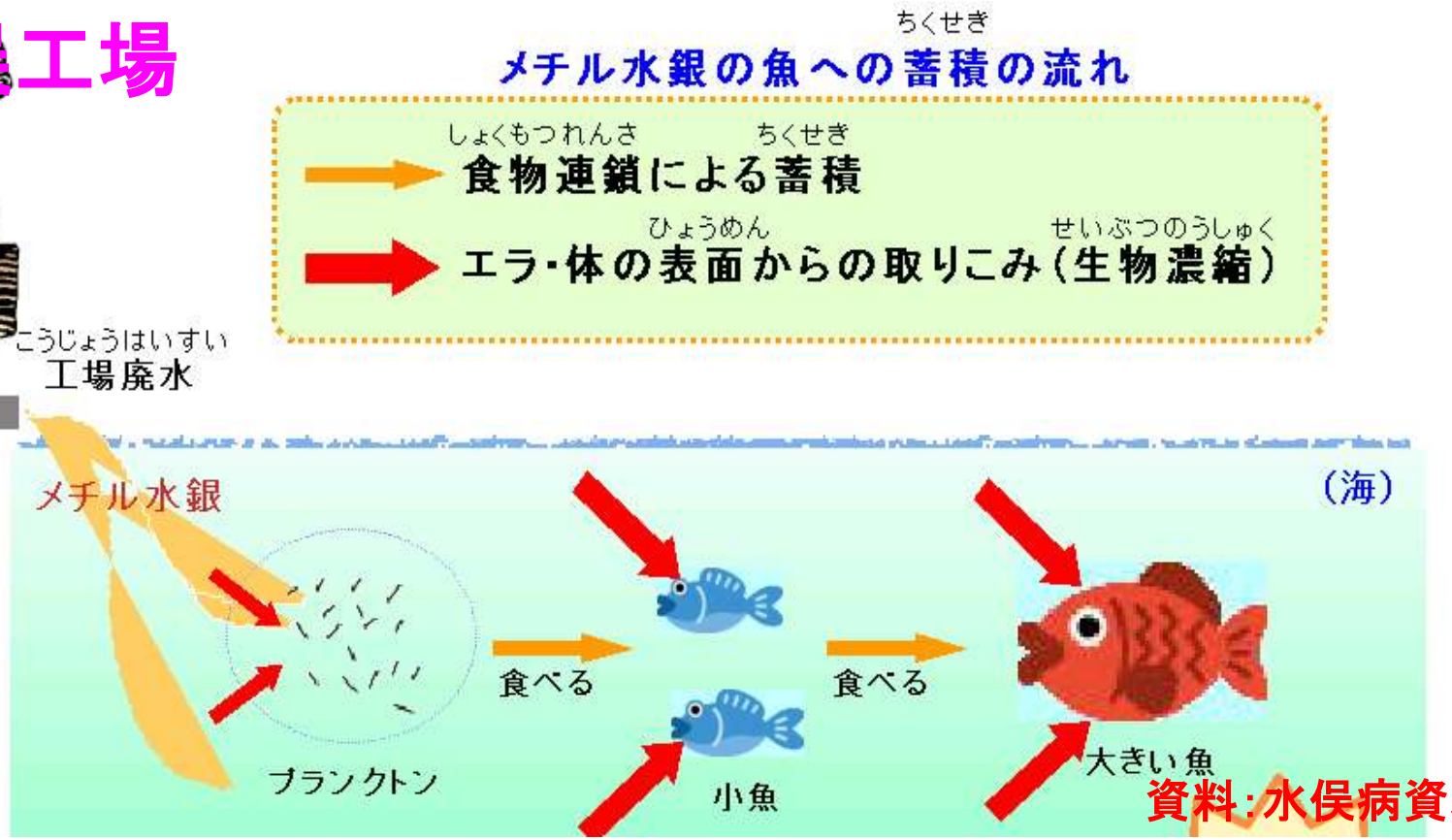
★……★
1932(S7)　1968(S43)

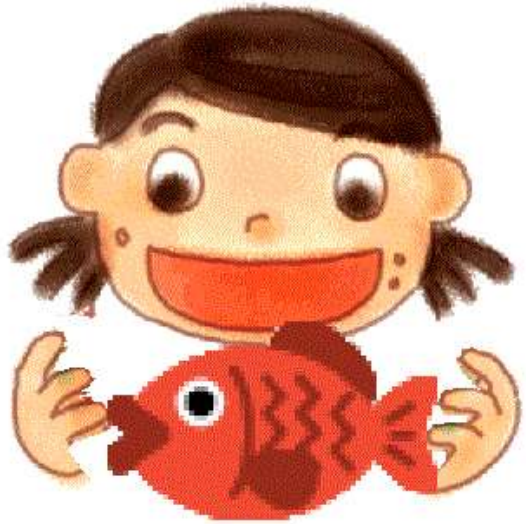
美しい豊かな海が汚された

不知火海：沿岸住民約40万人
垂れ流し期間：S7～S43（36年間）
無機水銀：推定500トン
有機水銀：推定約5トン
その他：無処理重金属
致死量：2500万人

水俣病事件：3つの悲劇

チッソ水俣工場





水銀が入っていると
知らずに魚を食べ、
水俣病になった

資料：水俣病資料館ホームページ

第1の悲劇：食卓から起こった。〔家族団らんの場〕

第2の悲劇：差別の存在。〔差別が水俣病を生み、住民どうしも分断〕

第3の悲劇：個人の幸せより集団の利益が優先された。〔憲法13条と25条：ともに侵された〕

見舞金契約（命の値段30万円）

1．見舞金契約（1959年S34年12月30日）

「死者30万円、葬祭料2万円、生存患者年金成人10万、未成年者3万円、成人に達したとき5万円。」

※「今後原因が工場排水と判明しても追加補償しない」（第5条）を含む。

→後の水俣病裁判判決で「公序良俗に反する」

（つまり破廉恥だと指摘され無効となる）

2つの漁民騒動：東京湾江戸川沖と不知火海

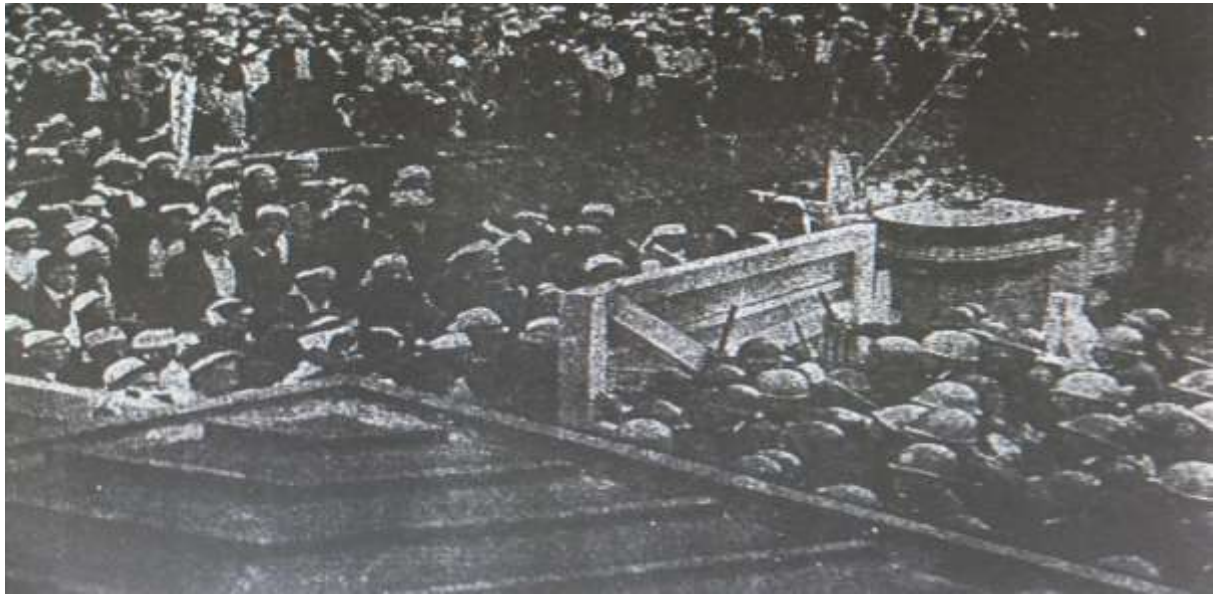
1958（S33．6月）東京湾江戸川沖

（東京）本州製紙江戸川工場に 浦安漁民（800人）操業停止要求

⇒　警官隊と衝突、漁民、警官隊の双方に負傷者多数、漁民逮捕8人

⇒　国・都は、工場操業の一時停止と水質2法（水質保全法・工場排水規制法）の制定。行政指導発揮。

1959（S34．11月）不知火海



（水俣）チッソ水俣工場に不知火海漁民2，000人操業停止要求

⇒　警官隊と衝突、漁民、警官隊、工場側に負傷者多数、漁民逮捕53人

⇒　国・県は、食品衛生法の不適用とチッソ排水の垂れ流し放置（水質2法不適用）。
逮捕者53人の内3人がのちに生活苦と汚名で自殺。

食品衛生法　第6条

次に掲げる食品又は添加物は、これを販売し、又は販売の用に供するために、採取し、製造し、輸入し、加工し、使用し、調理し、貯蔵し、もしくは陳列してはならない。

二．有毒な、若しくは有害な物質が含まれ、若しくは付着し、又はこれらの疑いがあるもの。

※都道府県知事は、営業者が第6条、‥の規定に違反した場合‥、営業の全部若しくは一部を禁止し、若しくは期間を定めて停止することができる。

若き日の父　輝夫　母　ミヤ子

1957年（s32．2月）結婚

川本輝夫とミヤ子の結婚記念写真。花婿25歳、花嫁26歳＝57年2月25日、水俣市内の写真館で

1958年3月生まれ生後3ヶ月の私を抱く母。海は豊かで恵みだった
坪谷海岸（水俣湾：背景恋路島）　　1958年（S33）7月撮影

家族の肖像

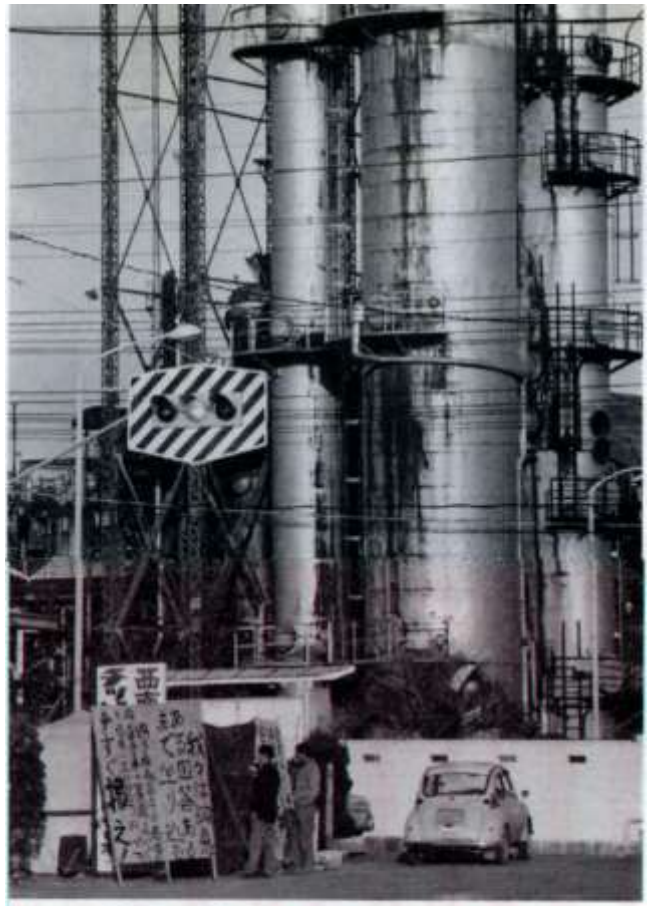
川本愛一郎が小学校に入学した日に、親子4人で記念撮影＝64年4月8日、水俣市月浦の自宅で

2歳の私をお守りする祖父　1960年（S35）撮影。
背景は、旧母屋。
　一本釣り漁師の祖父は、この後水俣病症状が悪化して狂騒状態、寝たきりになり、1965年（S40）死亡　。

たった一人からの闘い

父の闘い　:チッソとの闘い
人間としての尊厳を求めて。
自主交渉:チッソ水俣工場　座り込み

チッソ水俣工場前で、自主交渉の座り込み開始。看板は著者が書いた（1971年11月　撮影・塩田武史）



チッソ水俣工場と座り込みテント（1971年11月　撮影・塩田武史）

父の闘い　:満身創痍

忽然と姿を現した「動物園の檻」。鉄格子越しにハンドスピーカーで抗議する川本輝夫＝72年1月11日、東京・丸の内のチッソ本社で

小指を切って血書を書く川本輝夫（背中）と、不安そうに見守る嶋田賢一（左）＝71年12月8日、東京・丸の内のチッソ本社で（宮本成美氏撮影、水俣病センター相思社提供）

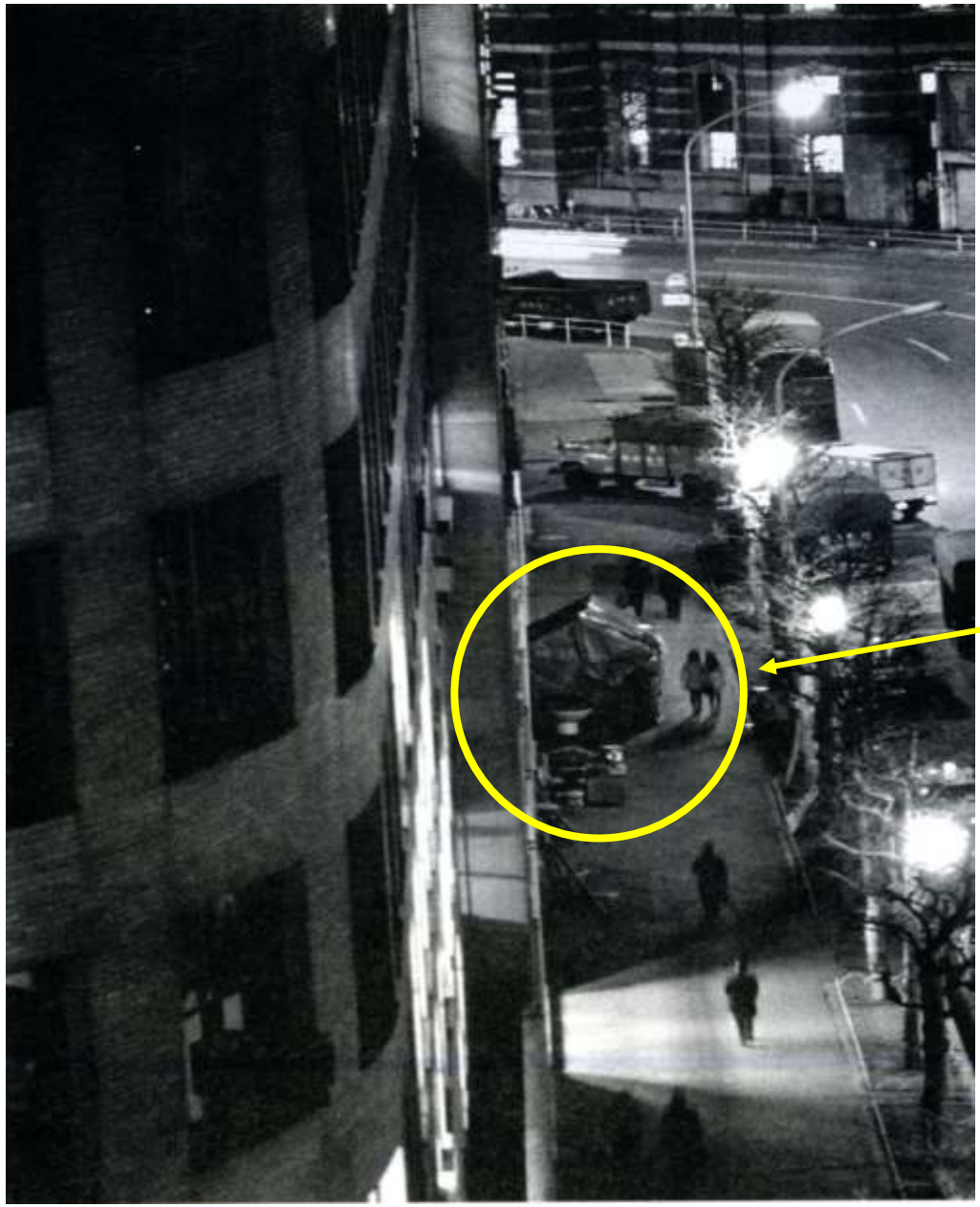
人は幸せになるために生まれてきたはずだ。勇気と信念を教えてくれた父　川本輝夫

熱意とは、ことある毎に意志を表明することに他ならない。

家族で上京　父を励ます

都心のオフィス街で餅つき。川本ミヤ子も手伝った＝71年12月30日、東京・丸の内のチッソ本社前で

自主交渉：チッソ東京本社座り込み

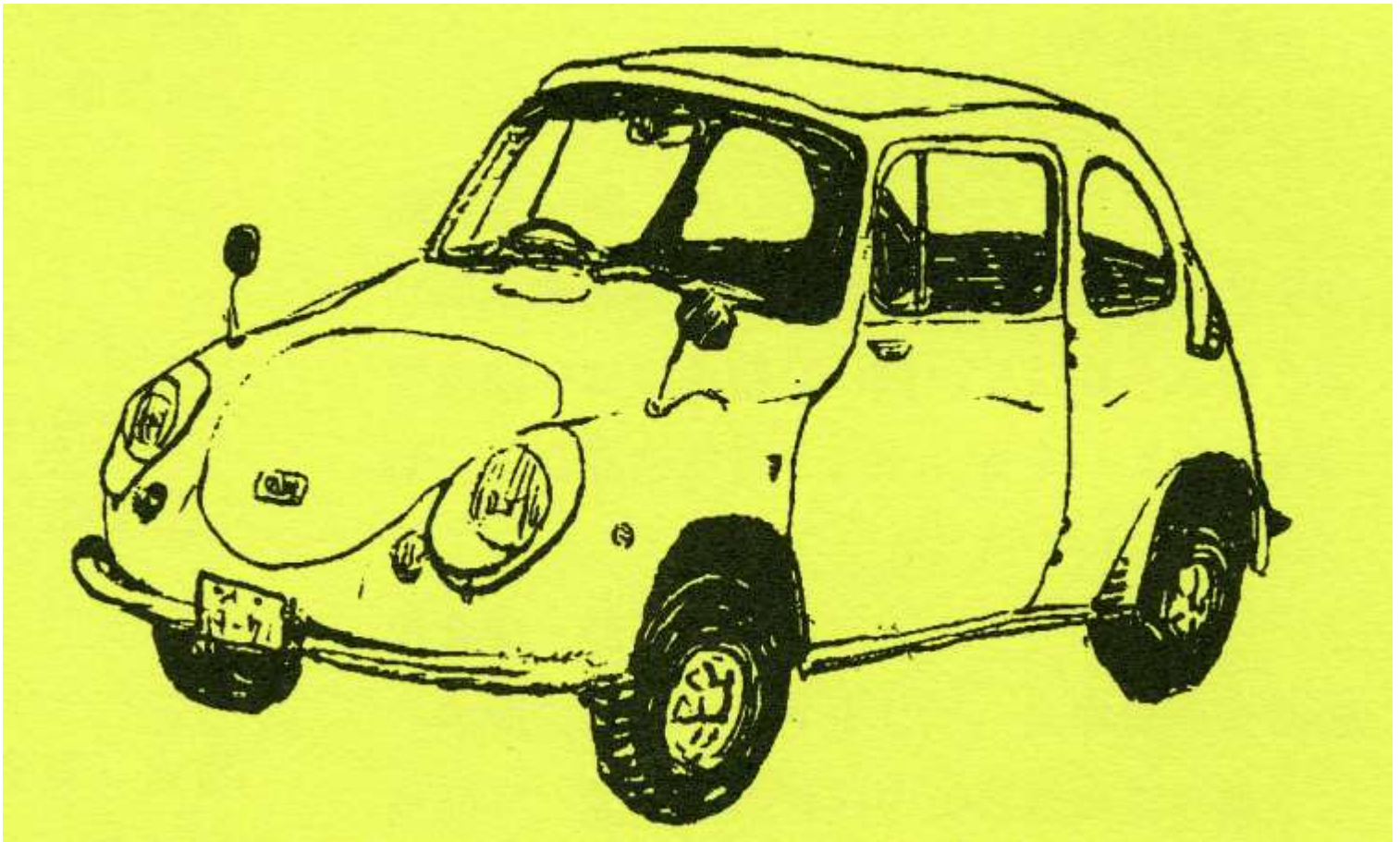


座り込みテント
1年9ヶ月間
（1971　S46年　12月24日～
1973　S48年7月まで）

原田正純医師

差別が公害を産む。
へその緒。
胎児性水俣病の発見。
現場から学ぶ姿勢。

検診場面



国・県・チッソ・専門家は重篤な（偽）水俣病

1. 偽求心性視野狭窄：加害（＝被害）の全貌が見えない（見ない）。
2. 偽運動失調：補償をスムーズに実行しない（遅延・複雑化する）。
3. 偽構音障害：謝罪を口にできない（しない）。
4. 偽知覚障害：患者の痛みがわからない（感じない）。
5. 偽難聴：患者の声が聴こえない（聴かない）。
6. 偽脱力：補償に力が入らない（入れない）。
7. 偽振戦：謝罪文書や補償文書などが思ったように書けない（書かない）。
8. 偽易疲労性：いつも「補償に疲れた（全力を尽くした）」と言って先送りする。
9. 偽健忘：言動を忘れる（覚えていないふりをする）。
10. 偽頭痛：水俣病事件で頭が痛い（痛いふりをする）。
12. 作話：著しい所見あり。嘘を本当と言い張る。
13. 人としての尊厳喪失：所見なし。ただし尊厳を奪う所見あり。
14. 被差別：所見なし。ただし差別の所見あり。

主な症状の抜粋

国・県・チッソ・専門家の偽水俣病病理

病理1．求心性視野狭窄：被害の実情が見えない（見ようとしない）

〔問題提起〕

　殺人事件など加害者と被害者では、失うものは被害者の方がはるかに大きい。水俣病事件でも同じことが起こった。加害者が被害者から理不尽に「奪ったもの」は何か？

⇒ 命・幸せ・人生・人の尊厳・人権など

加害者に「奪ったもの」を自覚させるにはどうしたらよいか？

環境庁座り込み

環境庁に座り込んだ未認定患者たち。政務次官会議で強制排除論が出た＝78年3月、東京・霞が関の第四合同庁舎ロビーで（相思社提供）

S53年2月24日　国の水俣病責任を問い環境庁・熊本県庁同時座り込み。
3月19日　強制排除:長官石原慎太郎

環境庁の強制排除に抗議する川本輝夫と、立ちはだかるガードマン
＝78年3月、東京・霞が関で（水俣病センター相思社提供）

父の闘い：逮捕歴3回・強制連行1回・家宅捜索2回

①父　川本輝夫　1976. S51年10月3日　三里塚デモで逮捕される。13日拘留の末、不起訴。
⇒不作為違法確認訴訟判決（1976. S51年12月15日　勝訴判決）

②1978. 3月27日　国の責任追及座り込み環境庁・熊本県庁の同時座り込みの県庁強制排除抗議中に熊本北署に、逮捕される。3日間拘留。不起訴。
⇒3月20日　歴代の通産・厚生・農林・熊本県知事を殺人・傷害罪で訴告。

③1980. S55年4月19日　水俣市で逮捕される。　12日拘留　不起訴。⇒日本初の公訴権濫用を戒める川本裁判「公訴棄却判決」で無罪確定、全面勝訴。（1980. S55年12月17日）　※拘留中のエピソード。「あの川本さん？」

④1972. S47年10月31日　警視庁丸の内署、チッソ社員に対する暴行容疑で父を強制連行取り調べ自宅家宅捜索。

ユージン・スミスと水俣と父川本輝夫

1．水俣に3年間移住し**水俣病患者を撮影。**
2．住居は、川本家から徒歩1分**（50m）**先。
3．1971年（S46）1月7日、父とユージン夫妻（妻アイリーン）、報道記者らは、チッソ五井工場（千葉県）の労働組合を訪れ、父たちの座り込みに理解と支援を求めた際、ユージン夫妻と父たちは、チッソ従業員約200名に囲まれ、五井工場の事務所内で暴行を受け負傷した。ユージンは、全身打撲、**脊椎骨折、左眼失明**、口蓋裂傷、カメラも破壊された。妻アイリーンも負傷した。

父も、**右足指骨折**、全身打撲を負った。

ユージンは、負傷した傷が悪化し暴行を受けた数日後に一時入院した。その後体調がすぐれず、1978年に59歳で**死亡した。**

※父たちに暴行したチッソ従業員は、**チッソ水俣工場からも動員**されていた。

チッソは、負傷したユージンに対し「自分で転んでケガをした」と**嘘**をついた。

母の退職記念家族旅行

闘いぬいた父と支えきった母

熱意とは事ある毎に意志を表明すること

川本輝夫さん追悼文集

一九三一・八・一～一九九九・二・一八

（有）リハシップ　あい（2004年起業）

熊本県

水俣市　25,400人

高齢化率　36.5%

鹿児島県

出水市　54,000人

高齢化率　30.5%

鹿児島県

川内市　96,000人

高齢化率　29.6%

水俣病事件　川本家　歴史的3ショット

リハシップ　あい　利用者数

デイサービスセンター　リハシップ　あい 水俣	108名
デイサービスセンター　リハシップ　あい 米ノ津	83名
デイサービスセンター　リハシップ　あい 西出水	217名
デイサービスセンター　リハシップ　あい 川内	110名
デイサービスセンター　リハシップ　あい 隈之城	80名
訪問看護ステーション　リハシップ　あい	126名（※52名）
発達支援ルーム　ここすてっぷ　西出水	38名
発達支援ルーム　ここすてっぷ　水俣	11名（7月開始）
	計 773名

※ 水俣病認定患者・医療手帳保持者・被害者手帳保持者

川本輝夫　水俣病事件資料館（自宅）

父　川本輝夫の素顔

子どもが大好きな父でした。

絵でたどる　父（じいちゃん）の想い出 Ⅰ

絵でたどる　父（じいちゃん）の想い出 Ⅱ

ご清聴ありがとうございました。